マイスター・ハイスクールだより

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」～

北海道教育庁学校教育局高校教育課
［第３号］　R4.３.22発行

令和3年度 第3回運営委員会を開催

１月28日(金)、第3回運営委員会がオンラインで開催しました。委員会では、今年度のマイスター・ハイスクール事業の取組について、実践研究の成果と課題等のまとめ及び検証・評価を行い、専門的見地から指導、助言をいただきました。

＜１年目の事業計画＞　テーマ『発見』

1　生徒が主体的に町の現状と将来像、地域産業の現状を把握して考察
2　新ひだか町長による地域が求める人材や職業人に係る講話
3　職業人材による講話等を踏まえ、生徒が地域の将来について考察
4　教育課程の刷新の方向性を検討・改善（次年度、学校設定科目を設定）
5　施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界、農業関連施設、大学等）
6　各種検定試験（資格）に対する理解を深め、受験に挑戦する心身の醸成及び受験
7　キャリア・パスポートの活用（指定期間において継続して活用）

1　生徒による報告

生徒から、今年度における各学科や全学科での取り組んだ内容と身に付いたことなどについて、報告がありました。

学科(コース)	今年度の取組内容	身に付いたことなど
食品科学科	・食品流通の仕組みと働き、食品表示、商品開発、食品の安全・安心、食品関連産業の実際、食の バリューチェーンに関する講義や食品卸売業者の施設見学など	・消費者を第一に考える大切さを学んだ。 ・栄養士や食品卸売業の実際を知り、進路選択の幅が広がった。 ・子どもたちに食の大切さを伝えたいという想いが芽生えた。
生産科学科 (馬コース)	・馬の管理と蹄、獣医療、国内外の馬産業、競走馬の繁殖と売却に関する講義や引き馬実習など	・蹄鉄の脱着など、より実践的な実習を行うことができた。 ・馬産業の担い手になりたいという想いが、より強くなった。 ・広い視点で、馬産業を考えるようになった。
生産科学科 (園芸コース)	・日高の農業、GAPを活用した生産工程の管理、地域園芸の特性と栽培技術、新たなアグリビジネスへの取組、ICTの活用に関する講義及び演習など	・地域における担い手不足が深刻であることを学んだ。 ・ICTの活用が労働力の削減につながることを学び、ICTへの関心が、より高まった。 ・将来、就農するに当たり、省力化や高付加価値化など、役に立つ内容をたくさん学習することができた。
eコマース、英語など全学科	・通販サイトを通じた情報発信と販売方法、インターネットを活用した新しいアグリビジネスの学習や、アメリカの高校とのアプリを通じた交流、町長の講話など	・特産物として販売されている商品には、それぞれ製造した人たちの思いがあることや、見る人に伝わりやすくすることの大変さを知ることができた。。 ・英語を学ぶことの面白さや大切さが理解できるようになった。

2　学校長による報告

学校長から、定量的目標及び定性的目標に対するアンケート結果を基に、本事業を通じて、生徒がどのように変容したのかなどについて報告があり、次年度の取組の方向性が示されました。

評価方法について

全校生徒127名を対象にアンケートを実施し、〔４：大いにあてはまる（思う）、３：あてはまる（思う）、２：あまりあてはまらない（思わない）、１：まったくあてはまらない（思わない）〕の４つの選択肢から回答を得た。そのうち、〔４：大いにあてはまる（思う）、３：あてはまる（思う）〕を肯定的な評価をした生徒として捉え、その生徒の割合の変化で達成度や習得度を測った。(年度始は６月、年度末は12月に実施)

○「定量的目標」に対するアンケート結果

項目	目標値	年度始	年度末	増減
ア　地域に魅力を感じ、愛着をもった生徒の割合	在籍者の80％以上	70.2%	75.5%	＋5.3P
イ　地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80％以上	51.7%	69.1%	＋17.4P
ウ　将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80％以上	36.5%	48.8%	＋12.3P
エ　様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合	在籍者の80％以上	47.2%	73.1%	＋25.9P
オ　自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行えた生徒の割合	在籍者の80％以上	76.8%	81.0%	＋4.2P
カ　ITやICT、IoTの役割を理解し、活用することができる生徒の割合	在籍者の80％以上	75.2%	82.2%	＋7.0P
キ　卒業後、即就農及び地域の主要産業への就職者の割合	卒業生の50％以上	55.3% (過去３年平均)	60.0%	＋4.7P
ク　卒業後、就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合	卒業生の40％以上	18.4% (過去３年平均)	20.0%	＋1.6P
ケ　英語で日常的なコミュニケーションができるようになった人の割合	卒業生の30％以上	－	24.7%	－
コ　在学中に海外の人と交流した人数	卒業生の50％以上	－	2.2%	－
サ　将来的な新規参入を目指して進学または雇用就農した人数	３人以上(3年間累計)	－	0人	－

＜アンケート結果に対する評価＞

・全ての項目で、肯定的な評価をした生徒が、増加した。
・地域に愛着をもった生徒が、もともと多かったが、事業を通して、より一層、地域のよさを発見し、愛着を感じる生徒が増えた。
・これまで、地域が抱える課題に触れる機会が少なかったと推察され、本事業による課題把握及び解決に向けた取組は重要であった。
・地域貢献に対する意識は、高学年ほど高くなる傾向があったものの、肯定的な評価が最も低く、今後、より一層地域と密着した活動の充実が必要がある。
・産業界と連携し、様々な方と交流することで、進路について具体的に考える機会となり、生徒の意識の変容に大きな影響があった。
・資格取得やIT等に対して、肯定的な評価をする生徒の割合が、１年目で目標値を上回った。
・英語の必要性を理解し、活用することができた生徒の割合が増えた。
・初年度ということもあるが、就農及び地域の技術者を目的とした進学が、あまり増加していないことから改善すべきと考えている。

○「定性的目標」に対するアンケート結果

項目		年度始	年度末	増減
【自己認識】	自分を客観視する力、自分に対する自信ややり抜く力	67.6%	80.8%	＋13.3P
【意欲】	物事に対して意欲的に取り組める力	66.6%	81.7%	＋15.1P
【忍耐力】	根気強く物事にあたる力	63.5%	75.1%	＋11.6P
【自制心】	自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力	63.9%	76.5%	＋12.6P
【メタ認知ストラテジー】	自分が今置かれている状況や理解度を把握する力	65.2%	79.0%	＋13.8P
【社会性】	リーダーシップがとれ、他者とのコミュニケーションがとれる力	60.8%	72.3%	＋11.4P
【回復力と対処能力】	問題が起こった時にすぐに立ち直れる、またそれに対応できる力	64.5%	72.1%	＋7.6P
【創造性】	ものを作ったり、工夫したりする力	60.8%	72.3%	＋11.4P

＜アンケート結果に対する評価＞
・全ての項目で、バランスよく増加した。
・「意欲」が最も増加したが、多くの専門的職業人から、より専門的な内容について講義を受けられた結果だと評価している。

○　次年度の取組の方向性（重点事項）
定量的目標の「将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合」の項目が大きく目標に届いていないため、「デュアル派遣実習」と「プロジェクト学習」の改善と充実を図る。

デュアル派遣実習	プロジェクト学習
・ガイダンス機能の充実 ・目標設定や振り返りなどの指導の充実 ・食品製造業の協力企業の確保 ・長期休業中の実施など実施形態の改善	・産業現場と連携した取組課題の設定 ・研究計画における専門家からの指導・助言 ・実践における専門家からの指導・助言

3　運営委員による検証・評価

生徒及び校長先生からの報告を受けて、各委員から今年度の取組に対する評価及び今後の課題について、検証・評価が行われました。

今年度の取組に対する評価

○　１年目としては、大変よい環境で学習が行われ、講師による授業には、大人も学びたい内容が、多くみられた。

○　地域の魅力の再発見や地域が抱えている課題、様々な職種からの学びなどが、将来につながる学習となっていた。

○　各項目の良好な評価結果から、充実した取組がなされ、１年目の「発見」というテーマが、十分達成できている。

○　事業開始から、１年足らずであるにも関わらず、意識の変化がこのように如実に表れたことに、驚いている。

今後の課題

○　「地域で職に就きたい」「地域に残りたい」と生徒が思える環境作りを、産業界や行政が行っていく必要がある。

○　「地域」の捉え方については、１市町村ではなく、日高管内に広げて考えるべきである。

○　今後の事業の取組について、学校としてはどういうところを伸ばしたいのか、どういうところを目標にしたいのかを明確にし、講師と確認しながら実施する必要ある。

○　指定事業が終了した後の事業の継続性について、検討が必要である。

○　自己表現が苦手な生徒や、個々の生徒の悩みなどにも目を向けながら、取組を進めてほしい。

○　専門高校では、産業界と連携した授業が一般的であることを、成果として示すことが必要ではないか。

○　定性的な評価について、自由記述やインタビューなどにより、要因を把握しないと、次の取組につなげられないのではないか。

中間成果報告会で静内農業高校が報告

１月26日(水)、今年度、マイスター・ハイスクール事業の採択を受けた12校が自校の取組状況を報告し、質疑応答を行う中間成果報告会(主催：文部科学省)が、オンラインで開催されました。
当日は、3グループに分かれ、各学校からの報告の後、質疑応答や企画評価委員による講評が行われました。

静内農業高校への講評

○　地域の農業人材を育成している、よい取組であり、CEOの人材配置がよい。育成する資質は明確になっているが、評価する仕組みが十分でないことが課題であると感じる。

○　地域の政策の方向に沿って、コミットして取り組むことは大事である。産業界から、もう少しコミットする人材がいればと思う。非常に期待している。

○　地域と結び付き、テレビ放映されるなど、応援する人がたくさんいることは、とても素晴らしい。引き続き、地域の人を巻き込んで、よい取組にしてほしい。

総評

○　本事業は、他のモデル事業と異なり、PDCAを意識している。検証及び評価を大事にして、改善につなげていくのが大きな特徴である。本事業の取組により、産学官の連携は、とても難しいことを意識し、実現に向けてどう取り組むのかが大切である。